

1 市町名 神川町

2 課題をもとにした仮説

〔仮説1〕「ユニット学習」を取り入れた他者との協働学習を行い、比較検討を十分に行えば、様々な見方・考え方が身に付くだろう。

〔仮説2〕単元全体を見通して学習内容を見極め、課題とまとめを明確にした授業を行えば、児童は見通しをもって主体的に学習することができるだろう。

〔仮説3〕学習環境を整え、基礎基本や活用問題を繰り返す学習を行えば、「できた」「わかった」を実感することができ、学習意欲が高まるであろう。

3 効果的な取組の例

(1) 市町教育委員会における主な取組例

①具体的な取組例

○「学力向上推進委員会」の充実

- ・埼玉県学力・学習状況調査の帳票の分析力を高める研修会の実施し、義務教育指導課から指導者を招聘し、町内の学力向上推進担当を集め、講義を受けた。
- ・この研修により、自校の課題の分析をして、目標を設定した。令和3年度の埼玉県学力・学習状況調査へ向けての「パワーアッププラン」を各校で作成した。

○管理職や指導主事の授業参観による授業力向上

- ・授業の基本を確認し、学習内容を明確にした日々の授業を大切にするために「振り返りシート」を活用し、フィードバックをした。



学力向上推進委員会

②取組の成果と課題

校内研修において、全職員で埼玉県学力・学習状況調査の分析をすることにより、課題が明確になり、日々の授業で何を特に強化していったらよいか職員同士で話し合うことで、担任と担外の全職員で教育に向き合おうというチーム力がアップした。

課題は、職員の機運が高まっているが、職員同士が授業を参観し合ったり、意見を交換したりする研修時間が取れないことである。

(2) 重点校における主な取組例

具体的な取組

「チーム埼玉」学力向上パワーアップ事業の研究指定を受け、全学調・県学調の結果を分析した上で、平成29年度から令和元年度まで下記研究に取り組んだ。

【研究主題】子どもを認め、鍛え、はぐくむ教育活動の推進

～主体的・対話的で深い学びにむけた算数科の授業の創造～

【主な取組】

1 ユニット学習の工夫改善

ユニット学習について、「課題解決でのユニット活動」「適用問題でのユニット活動」等における指導方法や改善点をまとめた。



ユニット学習の様子

2 コバトンのびのびシートの作成

支援の必要な児童について、コバトンのびのびシートを作成し、指導に当たる職員共通理解のもと課題に沿った支援を意図的に行った。

3 朝の学習の取り組み

県学調、全学調、その他各テストの結果を分析し、「復習シート」「コバトン問題集」を計画的に行った。

4 学習内容を明確にした単元計画

単元を見通して、学習内容を明確にした授業の展開を図るための工夫をした。

5 「丹荘小スタンダード」の効果的な活用

共通の授業の進め方「丹荘小スタンダード」を作成し、実践した。

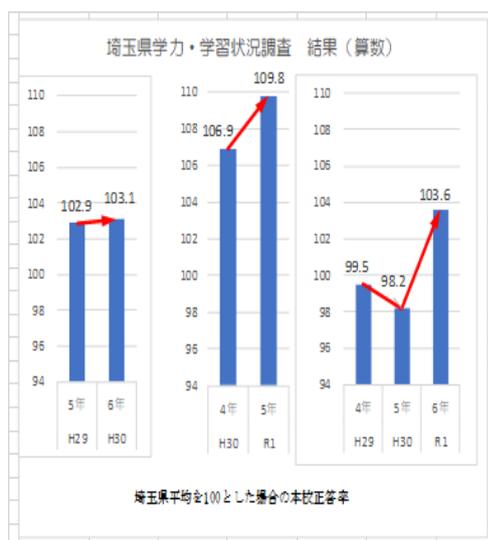


算数コーナー

6 算数コーナーを各階の廊下に設置

計算問題、体験問題、挑戦問題など、児童が興味をもちそうな問題をつくり、自由に取り組ませた。主体的に取り組む児童の様子が見られた。

取組の成果と課題



平成29年度から令和元年度にかけて、埼玉県学力・学習状況調査の結果を埼玉県平均と比較すると、算数の正答率が年々向上している。また学力の伸びについても、令和元年度の調査では、5年の国語が県平均と同等、他は全て県平均を上回った。この結果から、本校の取組により学力が向上したことがわかった。

令和元年度の全学調、県学調の結果を分析すると、問題を正確に読み取れていない、読む領域の正答率が低い等、読むことに課題があることがわかった。したがって、令和2年度からは、学校研究主題を国語の読む力の向上に定め、引き続き学力向上に向けて取り組んだ。